

埋文ふじのみや

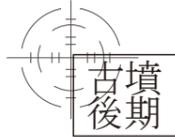
MAIBUN

Vol.11



「朝」と墨で書かれた土器（村山浅間神社遺跡 10世紀前半）

今号で紹介するのは、古墳時代～古代の遺跡。「古代」とは奈良時代、平安時代に相当する時期で、本格的な国家づくりが始まった頃。法律や行政区分の仕組み、戸籍など、多くの新しいルールが定められました。現代に生きる私たちも、まさに今、ソーシャルディスタンスやマスク、手指消毒など新しいルールに馴染もうと精一杯ですよ。時間をかけてルールを自分の物にしていったであろう古代の人々に思いを馳せながら、今回の号をご一読ください！



Oomuro

大室古墳

【市指定史跡】

おおむろこふん

富士宮市小泉

調査年 /
1978年・2001年



市内の数少ない古墳

大室古墳は、上小泉神社の北方の緩やかな丘陵に築かれた古墳です。周辺に神祖山の神古墳や神祖2・3号墳などがあり後期群集墳として、三ツ室古墳群を形成していました。市内に現存する3基の古墳のうちの一つで、墳丘高3m、径10mほど

の円墳です。古墳の中央には巨大な河原石を使用した横穴式石室が見られ、その内部構造の一端を知ることができます。調査では幅2mほどの溝がその周囲を巡り、大きさを規定しています。墳丘や濠内で見つかった須恵器から、7世紀中頃から8世紀にかけて営まれた古墳であることが分かりました。

報告書 / 『大室古墳』1979年
『富士宮市の遺跡Ⅳ』2008年



墳丘実測図



露出する石室

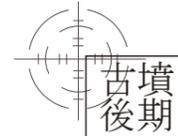


古墳遠景



2

Oomuro



Kinogyouji

木ノ行寺遺跡

きのぎょうじいせき

富士宮市小泉

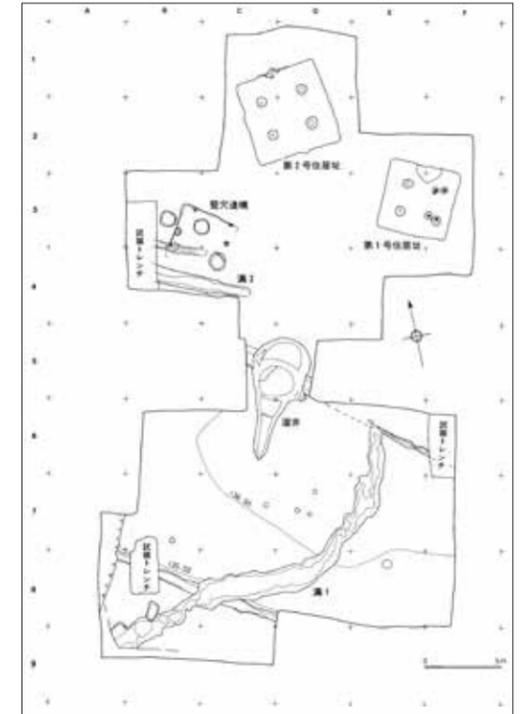
調査年 / 1994年



古墳時代後期の集落

木ノ行寺遺跡は、富士宮東高校の敷地を中心とした遺跡です。発掘調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡が2軒見つかりました。1軒は4.7m四方で、もう1軒は6m×5.7mのやや大型のものです。いずれの住居址も北側に竈がすえられ、柱穴が4個ありました。小型の方は南西を向き、大型の住居は南側を向いているため、人が住んでいた時期に若干の時間差があるものです。大型のものは、7世紀中頃のものでした。他に6世紀の溝が見つかっており、古墳時代に継続的に人々が生活していた様子が分かりました。

報告書 / 『木ノ行寺遺跡』1995年



発掘調査全体図



遺跡から市街地を望む



竪穴住居跡

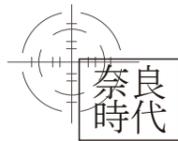


須恵器 (左2点) と土師器



3

Kinogyouji



Mineishi 峯石遺跡

みねいしいせき

富士宮市大岩
調査年 /1993年

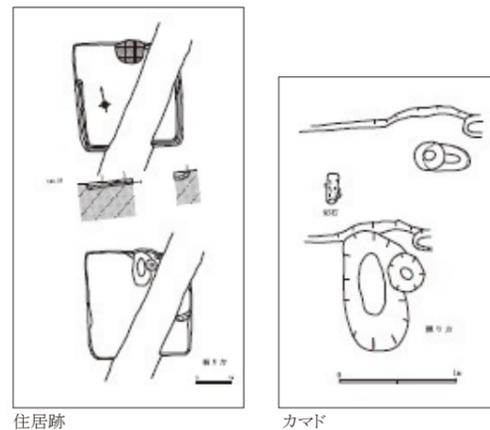


古代の住居跡

峯石遺跡は、大岩の、富士山から放射状に広がる緩傾斜の丘陵上に位置する遺跡です。発掘調査では、奈良時代の住居跡が1軒見つけられました。大きさは約3m四方の方形で、北側の壁に竈がありました。床は、地面を掘った土を貼った貼床構造になっていて、壁の外側の一部に溝を巡らせていました。

遺物は、甕と砥石が見つかりました。甕は内面に焦げた痕跡が見られ、煮炊きに使用されたことが分かります。

発掘調査では住居跡が1軒しか見つかりませんが、奈良時代に大岩の地に人々が住んでいたことが分かる遺跡です。
報告書 / 『峯石遺跡』1994年



住居跡

カマド

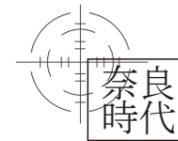


住居跡

Mineishi



4



Kamiisshiki 上石敷遺跡

かみいっしきいせき

富士宮市小泉
調査年 /1981年

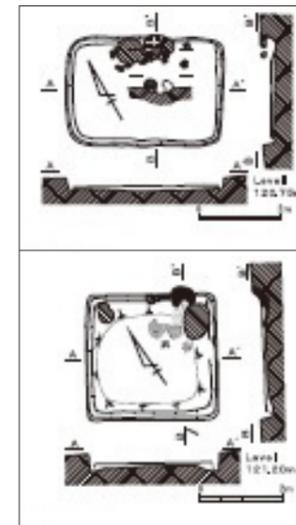


古代の住居跡が 立ち並ぶ

上石敷遺跡は、小泉の久遠寺川の左岸の遺跡です。区画整理事業で消滅してしまいましたが、現在は住宅地になりましたが、発掘調査で遺跡の全貌が明らかとなりました。発掘調査では、8世紀中頃の奈良時代の住居跡が3軒見つけられました。住居は、地面を掘り窪めた上に粘土を貼り付けて床面を作っていました。これは、粘土を貼ることにより、地面から湿気が上がってくるのを防ぐ効果があります。また、北側に竈が据え付

けられており、竈の周りに灰が散らばっていました。小泉に奈良時代の村が営まれていたことが分かる遺跡です。

報告書 / 『上石敷遺跡』1985年



1号竪穴住居跡

2号竪穴住居跡



刀子



土師器甕



遺跡全景

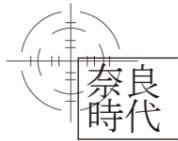


1号竪穴住居跡



5

Kamiisshiki



Isshiki 石敷遺跡

いっしきいせき

富士宮市小泉
調査年 / 1999 年

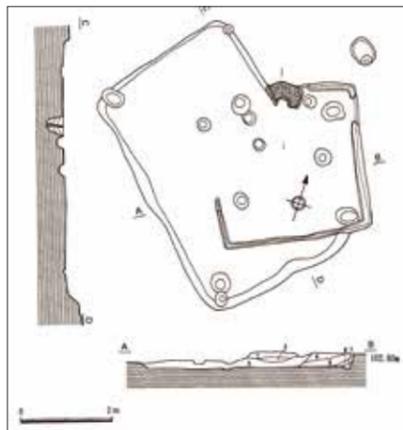


古代の住居跡や掘立柱建物跡

石敷遺跡は、小泉の久遠寺川の左岸にある遺跡で、北西には上石敷遺跡が位置しています。奈良時代の竪穴住居跡が1軒

と、掘立柱の建物跡が4軒見つかりました。竪穴住居跡は、1辺3m程の正方形で、柱の穴と竈が内部にありました。掘立柱建物跡の柱の穴は60～70cm×80cmの四角形で底面は平らでした。建物跡が複数あり、掘立柱建物跡は一部重なっているものがあったりと、継続的に集落が形成されていたことが推測されるものです。

報告書 / 『石敷遺跡』2000年



住居跡



住居跡



カマド



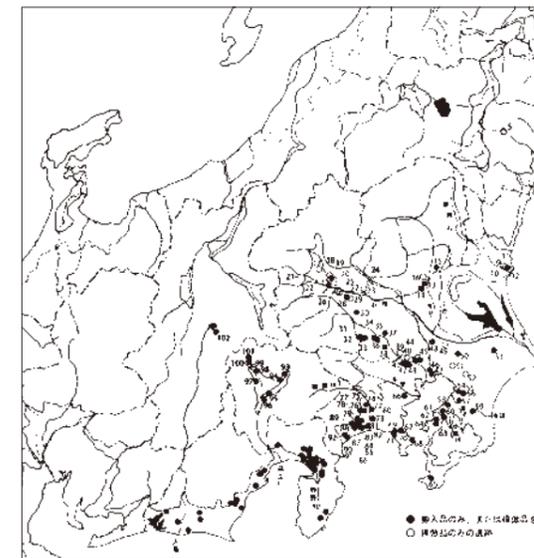
掘立柱建物跡

遺跡から富士宮の原始・古代を考える 邪馬台国時代の富士宮

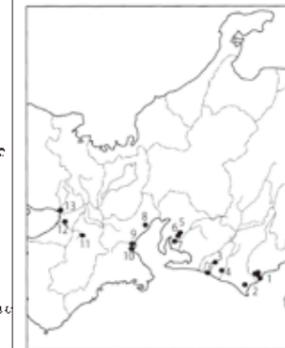
おおくるわしきどき
大廓式土器とは
—古墳時代の始まりと交流について—

前回、次は、古墳時代前期に営まれたムラ(集落)について考えてみることにしていましたが、その前に、『大廓式土器』と呼ばれるこの地域特有の土器について、少し考えてみようと思います。

大廓式土器は、駿河湾の東側に分布する容器としてのいくつかの種類からなる土器の集まりを表したもので、2世紀後半から4世紀前半の時代が当てられます。壺、甕、鉢、高坏、器台など多彩で、用途に応じたいくつかの形が確認されています。その中に、壺として物を貯めるための土器で、非常に大型の壺のあることが確認されています。これを『大廓の大型壺』と呼ぶことにしています。写真に駿河における代表的



第1図 大廓式(系)土器の分布 (柳沼、2013)



第2図 大廓式土器出土の遺跡分布図(細田、2013)



月の輪平遺跡出土の壺

な例を、月の輪平遺跡出土のものを含めて示してみました。富士宮の月の輪平遺跡で出土している壺は、下半部がありませんが、非常に大きな壺であることが分かります。この壺は、非常に特徴的で、形や焼かれた粘土などから、それとすぐに分かる土器です。そして、この土器の各地における出土を見てみると、第1図や第2図のように、突如として3世紀に全国へ広がることが分かるのです。この土器は、明らかにこの駿河で作られた土器です。それがいろいろな地域へ運ばれていったのです。3世紀に全国的な広がり示した地域間の交流に関わるこの『大廓の大型壺』とは一体何だったのでしょか。このあたりから、邪馬台国時代に使われていた物について考えてみることにします。

～以下次号～



次号の案内

富士宮市内で見つかった遺跡

古代から中世へ

次号ではいよいよ、われらが浅間大社遺跡が登場。富士山信仰の本拠地です。大宮城跡や山宮浅間神社遺跡、村山浅間神社遺跡など、一般の方々にもよく知られている場所がそれに続きます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、様々なイベントの予定が立たないため「富士宮市の見どころ案内」をお休みします。

富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

所在地 〒419-0315
静岡県富士宮市長貫 747-1

電話 0544-65-5151
FAX 0544-65-2933
E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室

開館日 平日
* 祝日及び年末年始（12月28日～1月3日）は休館

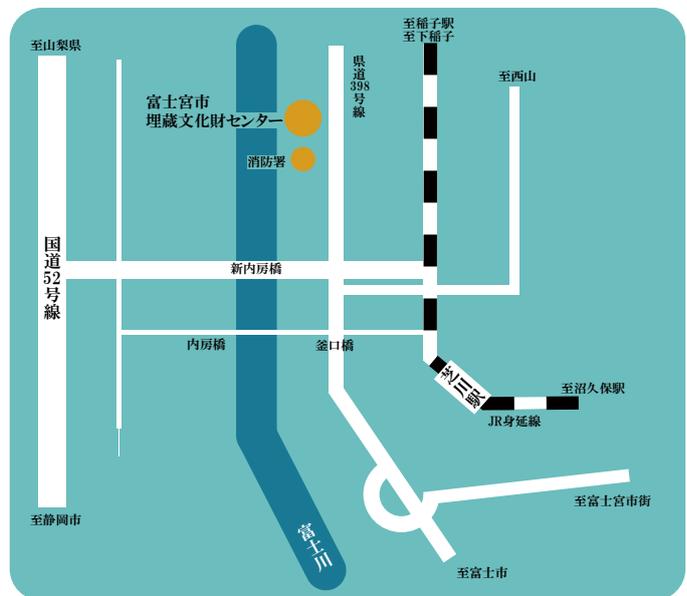
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
* 埋蔵文化財センターの業務時間は
8:30～17:15

見学料 無料

駐車場 あり（無料）

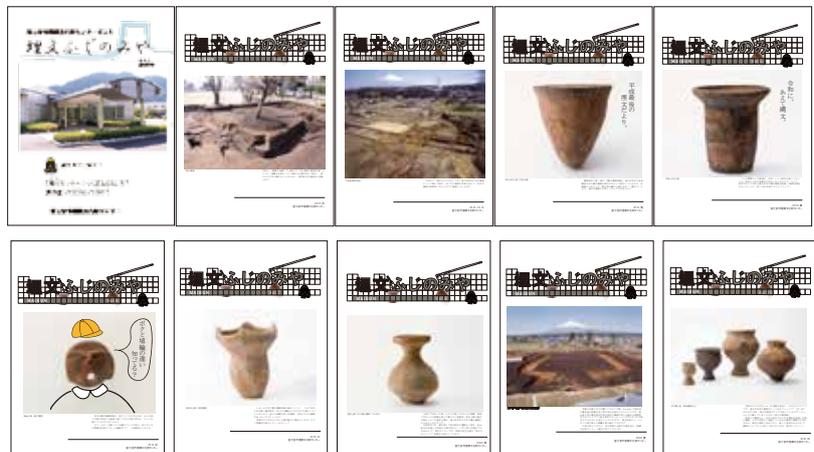


交通案内



【バックナンバーのご紹介】

これまでに発行された『埋文ふじのみや』vol.1～vol.10は、富士宮市のホームページでご覧になれます。合わせて、最新号も公開しています。



富士宮市埋蔵文化財センターだより
埋文ふじのみや Vol.11

令和2年12月

編集／発行 富士宮市埋蔵文化財センター